



図書たより

NO. 11

Sep 2015

明治大学中野図書館



図書館員オスメの本

【マーカス・デュ・ソーティイ著『素数の音楽』新潮社，2005】



無限に続く素数のこの出現に規則性はないのかこの問いは2000年以上前から続いている。この本は数学者たちの素数をめぐる研究をたどる壮大なノンフィクションである。中でも今も証明されていない「リーマン予想」問題が中心である。ただこの本は高校生前半くらいまでの数式しか使わずに説明し、また流麗な文章も魅力的で、数学者たちの自伝としても読める。第4章でリーマンの「1からNまでの素数の数を導く公式」の説明で、「複素数に広げたゼータ関数の風景」が手がかりとされていた。誤差を補正するゼロ点の波、それもまた「素数の音楽」という。素数はインターネットで使われる暗号とも密接で身近なところに関係している。数学を学ぶ学生にも表現の豊かさを教え、数学にちょっと興味のある人にもチャレンジしがいのある、1冊だと思う。※新潮文庫版もあり。

【眞並恭介著『牛と土：福島、3.11 その後。』集英社，2015】



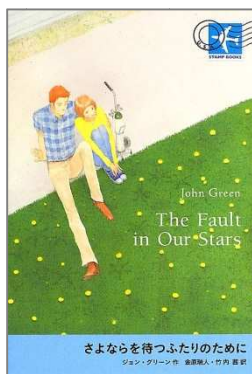
震災から4年半経った現在も、警戒区域内で被ばくした牛を飼っている人たちがいることを知っているだろうか。国は震災から2ヶ月後「警戒区域内で生存している家畜は、所有者の同意を得て安楽死処分すること」を指示した。警戒区域で生存していた牛3500頭のうち約550頭が、処分に同意しなかった所有者によって飼育され続けている。彼らは被ばくして商品価値がなくなった牛のために、立入許可を申請し、避難先の遠方から長時間かけて警戒区域に通い、慰謝料や賠償金をエサ代にあてている。本書は2011年秋から牛飼いとのつながりに魅かれた著者が4年におたる取材で書きあげたノンフィクションである。やがて、雑草を餌にするために荒れ果てた農地で行っていた放牧が、雑草を食べることによって農地保全につながり、土地の除染の可能性をもつことが判明する。また、生き続けている牛が人体の被ばくへの影響調査につながり存在価値が見出されている。現在も理不尽な現実に立ち向かい、闘い続けている人々をぜひ知って欲しい。

【やなせたかし著『アンパンマンの遺書』岩波書店，2013】



多くの人に愛される国民的ヒーローはいかにして生まれたのか。本書はアンパンマンの作者であるやなせたかし氏が生前、自身の半生について綴った自伝的エッセイである。「なんのために生まれて、なにをして生きるのか」、自らが作詞を担当したアンパンマンのテーマソングは、やなせ氏にとって人生のテーマソングでもあったという。波瀾万丈ともいえる人生をユーモアあふれる文章が語る。4コマを意識したという構成も面白い。本書は大きく四つの章からなるが、幼少期から戦争が終わる二十代後半までを書いた第一章がなんと人生の1コマ目である。時代を彩った様々な分野の著名人らとの交流も興味深かった。今は亡き著者の人柄に触れることのできる1冊だ。

【ジョン・グリーン著『さよならを待つふたりのために』岩波書店，2013】



2014年、低予算映画が大作を押し、全世界で3億ドルを超える大ヒットとなった。その原作が「さよならを待つふたりのために」である。ガンで余命宣告をされている16歳のヒロインとガン治療のために片足を失った少年の恋愛物語である。「お涙ちょうだいもの」のよくある話」ではなく、普通の男女の青春小説なのだとあえて言いたい。読後感はとてつもなく前向きで幸せな気持ちでいっぱい。

さて、原題は「The Fault In Our Stars」でシェイクスピアのセリフをもじったものだろう。ガンになったのは自分たちのせいではなく、星（運命）のせいだというわけだが、映画の邦題は「きっと、星のせいじゃない」に変わっている。小説を読んだ後に改めて3つのタイトルを比較してみてもどうだろうか。

TIME 誌が選ぶ2012年度の小説1位。

【国立科学博物館産業技術史資料情報センター監修『日本のものづくり遺産：未来技術遺産のすべて』山川出版社，2015】



「未来技術遺産」（正式名称、重要科学技術史資料）は、「未来に引き継がれるべき日本の技術遺産」という意味で、日本で育まれてきた科学技術の重要な資料の保存と活用を目的とする国立科学博物館の事業のひとつだ。技術の移り変わりはとても速く、過去の技術者たちが築いた製品や経験は、世界的な激しい技術革新と産業構造の変化のなかで急速に失われていく。しかし、そんな日本の「技術」を先人たちの思いとあわせて、人類の智として世界に発信し、未来の人々へも伝えていく義務があるという。「蚊取線香」から「ウォークマン」「写ルンです」まで、2008-2014年度登録の「未来技術遺産」をすべて収録し、年表、写真、図表、コラムを使って、日本で生まれた技術革新の歴史がわかるようになっていく。ちなみに、本書には収録されていないが、2015年9月、AIBOもこの「未来技術遺産」に登録された。1999年から2006年にかけてソニーが販売した人工知能搭載の家庭用犬型ロボットだが、2014年ソニーによるサポートが終了すると、壊れてしまったAIBOの修理ができなくなり、大切に育ててきた飼主によって葬儀が行われることや、元ソニーのエンジニアが家電修理会社を立ち上げ修理を請け負っていることが話題になっている。「技術とにもある人々の思い」もいつまでも大切にしていきたいものだ。

図書館からの

図書館ゼミガイダンスを
行っています。ガイダン
ス中は説明等で騒がしく
なることがあります。
申し訳ありませんが、
ご了承ください。

お知らせ！

